地域社会における舞踊文化の多様性とその可視化――「放課後ダイバーシティ・ ダンス」の試みと考察

武藤大祐（群馬県立女子大学）

１．はじめに

発表者が企画し、ディレクターを務めた子供向けのワークショップ・プロジェクト「放課後ダイバーシティ・ダンス」（2019～21 年）は、子供たちに多様な舞踊にふれる機会を提供し、舞踊や文化への新たな興味関心を喚起しようとする試みである。東京都およびアーツカウンシル東京が主催する Tokyo Tokyo Festival の公募事業として、港区、国立市、日の出町の三か所で展開した。本発表では、この企画を通じた、地域社会における舞踊の文化多様性とその可視化に考察を加える。

２．プロジェクトの特色

この企画は、例えば伝統舞踊の体験教室などとは二つの点で大きく異なっている。まず、特定の舞踊ではなく、複数の異なる舞踊に次々とふれながら多様性（差異）を体験することに主眼を置く点である。具体的には、90 分のセッションを前半と後半に分け、日本舞踊とフラメンコを続けて習ったり、前半で基本的な型を習った後に後半では創作を試みる、などの仕掛けを施している。

もう一点は地域社会へのコミットメントである。すなわち、児童館など子供が日常的に集まる場を会場に用いると同時に、普段から近隣で活動している舞踊の担い手（プロからアマチュアまで）に講師を依頼した。地域社会の内部で成立するイベントとして構成することで、舞踊を教える大人たちに焦点をあて、身近な生活世界における舞踊文化の多様性を浮かび上がらせたのである。

３．多様なアクターとの接触と文化の再分節化

実施拠点はそれぞれ「港区立麻布子ども中高生プラザ」、「くにたち芸術小ホール」、「日の出町立志茂町児童館」である。国立市のみ児童館ではないが、子供たちにとってのサード・プレイスとしても機能しており、参加障壁の低さは理想的であった。なお実際にワークショップに参加した子供たちは主に小学校低学年～中学年である。

様々な舞踊の講師を招くために、まず地域の舞踊文化をリサーチする必要があるが、この作業は、コンテンポラリーダンスなどの領域で活動するアーティストに依頼した。その結果として、一般的に人気のあるストリートダンスやバレエなどと同列に並べる形で、フラメンコや盆踊り、フラ、カポエイラ、さらにアフガニスタンやトリニダード・トバゴの伝統舞踊、地域に根付いた獅子舞や囃子踊りなどの郷土芸能といった実に様々な舞踊を紹介することができた。講師は、スタジオや教室を運営している方から、郷土芸能の保存会、大使館職員、教員、愛好家、アーティストまで多岐に渡る。

どのワークショップも原則として一度限りで、基本的な動作やリズムを教える／習うことになる。それゆえ必ずしも指導経験が豊富でない大人でも、子供たちとコミュニケーションの場を楽しく盛り上げることができた。一例を挙げれば、トリニダード・トバゴの民俗舞踊「ベレ」を教えて下さった方は高校の外国語指導助手である。自国の民俗舞踊を日本で教えたことはないというが、子供たちには映像でカリブ海の人々の芸能を紹介したり、踊りに付随する歌をカタカナで教えたり、男踊りと女踊りに分かれて練習した後、最後に全体で合わせるなど、様々なプロセスを通じて文化を体験してもらうことができた。技術の伝授よりも異文化との接触を重視する場合、新奇性の印象こそが有利に働く。そして教える大人の側も新しい経験を積むことになるのである。

本企画は地域の中に潜在する舞踊文化を顕在化させて子供たちとつなぐのみならず、馴染み深い郷土芸能を普段とは違う枠組のもとに紹介する機会ともなった。本来は特定地区の男子にのみ教える踊りを、地区外に住む女子にも特別に教えて頂いた例もあり、地元の人々に強い印象を与えたようである。部外者の介入により、一時的とはいえ、地域文化の再分節化（rearticulation）が引き起こされた、と要約することができよう。

４．可能性と課題

こうした文化多様性の可視化が地域にもたらすインパクトを検証するには、より長期的な観察を必要とする。しかし一部ではこの試みを引き継ぎ、交流を継続する動きも生まれており、地域住民の間に一つの考え方を提供することにはなったといえる。講師の中からは異ジャンルの舞踊にふれることの意義を積極的に語る声も聞かれた。

他方、国際的な潮流である「多様性」の推進という「美辞麗句」がかえって隠蔽しがちな「制度化・構造化された不平等、格差、差別の問題」（岩渕 2021:16）と十分に向き合えたとはいいがたい。あからさまな政治的アジェンダを掲げないことで既存の権力関係を迂回するに留まっており、この点に文化実践としての課題を残す。

【文献】

放課後ダイバーシティ・ダンス ウェブサイト（https://addance.net/）

岩渕功一（2021）「多様性との対話」、岩渕功一編著『多様性との対話』、青弓社、2021 年。

（附記：本研究は JSPS 科研費 21K00193 の助成を受けたものである）